

市長記者会見記録

日時：2024年11月5日（火）14時00分～15時16分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和6年度「かわさきマイスター」を認定しました【経済労働局】

第17回川崎国際環境技術展を開催します！～専修大学生を中心とする学生が技術展を盛り上げます～【経済労働局】

<内容>

【議題】

《令和6年度「かわさきマイスター」を認定しました》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日1つ目の議題は、「令和6年度かわさきマイスターを認定しました」となっております。

初めに、令和6年度かわさきマイスターに認定された皆様を福田市長から発表いたします。市長、よろしくお願いします。

【市長】 お願いいたします。それでは、令和6年度かわさきマイスターに認定いたしました5名の方を御紹介いたします。

本市では、市民生活の向上や産業の発展を支える優れた技術・技能の振興・継承を目的として、平成9年度にかわさきマイスター制度を創設し、毎年公募により候補者を募り、特に優れた技術・技能をお持ちの方を、市内最高峰のたくみ、かわさきマイスターとして認定しております。今年度は14名の方から御応募があり、かわさきマイスター選考委員会において厳正な選考を行っていただき、5名の方を令和6年度のかわさきマイスターに認定いたしました。

今年度の認定者5名に加えて、これまでに83職種129名の方がかわさきマイスターの認定者となりました。マイスターに認定した方々の職種は様々ですが、共通していることは、卓越したたくみの技を保持されているだけでなく、自らの技術・技能の継承や後継者の育成にも日々積極的に取り組まれているところにあります。今後も本市の技術・技能の発展のためお力添えいただきたいと存じます。

それでは、5人の方々につきまして、五十音順に御紹介をさせていただきます。

初めに、遠藤豪人さんでございます。職種は機械設計・製作でございます。遠藤さんは高津区の東野川にあります有限会社伊藤工業に勤務しておられ、こちらは平成22年度に認定されました伊藤直義マイスターが社長を務める会社でございます。遠藤さんの技能面の特色は、顧客の意図を汲み取り、要望を満たす機械装置の全体像を構想しまして、仕様を定めて機構を設計し、部品も製作して組み立てるなど、全ての工程を1人で完成させることができる点でございます。遠藤さんが製作した機械や装置には、下水管の管内検査ロボットなどがあり、機能面だけでなく、外観や使いやすさに配慮した製品を手がけておられます。

続いて、鈴木宏さんでございます。職種は、無電解ニッケルメッキ表面処理でございます。

鈴木さんは、川崎区浅野町にある株式会社ブラザーにおいて、国内最大級の無電解ニッケルメッキライン「メガニッケル」の現場責任者を務めておられます。メガニッケルラインで扱う製品は、大きさ、重さが規格外、かつ複雑な形状なものが多く、鈴木さんは経験とノウハウを基に、一般的なメッキ処理に係る技術・技能だけでは対応できない製品に高品質かつ均一なメッキ処理を施すことができる技能者でいらっしゃいます。

続きまして、西雅也さんでございます。職種は温間・冷間圧延加工でございます。西さんは、中原区下沼部にありますリカザイ株式会社において、製造部のグループリーダーを務めておられます。圧延加工とは、回転する２本のローラーの間に金属の板などの素材を通して、所定の厚みに薄く延ばす加工技術であります。西さんは、マグネシウムなどの加工が難しい素材や試作品の依頼を社内で一手に引き受けており、経験や繊細な感覚を基にしたロール間隔の調整や、数ミクロン以下の薄箔の剥がしを手作業で行うことができ、触っただけで箔の厚みが分かるという技能者でいらっしゃいます。

続いて、橋本大輔さんでございます。職種は左官です。橋本さんは麻生区はるひ野にあります株式会社白壁屋の代表取締役を務められ、現代の左官業では数少ない、既存建築物の修復を主に手がけておられる方です。橋本さんは、左官の伝統技法の研究を追求しておられて、古来、日本住宅に使われてきた技法を習得し、歴史的建造物や寺院の修復工事に携わっておられます。また、年齢や業種にとらわれない交流を積極的に行い、自ら獲得した技術・技能の若手への継承など、業界の発展と後継者育成のため幅広く活動をおられます。

最後に、松林繁さんでございます。職種はスタッド溶接です。松林さんは、川崎区浅田にあります有限会社マストにて代表取締役を務めておられます。スタッド溶接とは、鉄板や鉄骨などの母材にボルトやピン、鉄筋を電気溶接する工法で、建築物や工業製品に幅広く用いられております。松林さんも羽田再拡張時のD滑走路建設工事ですとか、高速１号羽田線の東品川栈橋・鮫洲埋立て部の更新工事など、様々な大規模公共工事に携わり、スタッド溶接全般を取りまとめる指導的な役割を果たしてこられた技能者でいらっしゃいます。

以上、皆様方の職種は様々でございますが、いずれもその分野で錬磨と精進を重ねられ、高度な技術・技能を身につけてこられた方ばかりでございます。長年にわたる研鑽により、その道を極められ、後進の目標となられた皆様の御努力に敬意を表しますとともに、今後もすばらしいたくみの技を生かし、市内最高峰の技術・技能者として、引き続きものづくり都市川崎を支えていただくようお願い申し上げまして、私からの御紹介にさせていただきますと思います。ありがとうございました。

【司会】 ありがとうございました。市長は席のほうに。

続きまして、今年度、かわさきマイスターに認定された方々から一言ずつ御挨拶をいただきます。なお、本日御出席予定でした西雅也様におかれましては、体調不良のため本日欠席しておりますので、代理にリカザイ株式会社取締役でございます有賀成一様に御出席いただいております。本日御出席いただいた皆様、私がこれからお名前をお呼びいたしますので、演台にお進みいただきまして、御挨拶をお願いします。

初めに、遠藤豪人様、よろしくお願いいたします。

【遠藤様】 はじめまして。伊藤工業の遠藤と申します。仕事は機械の設計・製作をやっております。生産設備機械とか、あと実験装置であるとか測定器といったものをよく作っています。最近ではインフラ関係の検査装置ロボットをよく作っています。それが大体今半分ぐらいになりました。今後もいろんな機械を作り続けていけたらいいなと思っていますし、できるだけ変なネタがあるといいなと思っています。よろしくお願いいたします。(拍手)

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、鈴木宏様、よろしくお願いいたします。

【鈴木様】 こんにちは。株式会社ブラザーの鈴木です。株式会社ブラザーは、無電解ニッケル及び硬質クロムの専門業者です。私が所属するメガニッケルは、幅2メートル、長さ4メートル、深さ3メートルの最大重量10トンの製品を扱う設備を持ちますが、この大きさの基礎を保有する会社は全国で数社しか存在せず、その中でも弊社は先駆けとして、半導体や液晶製造装置メーカーをはじめとした大手様から高い評価をいただいております。私はその立ち上げメンバーの責任者です。

当社の無電解ニッケル、特に精密部品へのメッキは、どの部品を取ってもサブミクロンレベルで均質性が求められます。このように板状のものでしたら容易にメッキが速やかに均等につくんですけれども、半導体に使用する精密部品、ちょっと見づらいですけれども、これなんかは細部に加工がされていて、目視でなかなか確認できないようなこともあります。そのような難易度の高い、高品質なメッキを施すために、品質や材料、形状を正しく理解し、メッキ液の温度、濃度、状態を見極める技術が必要です。今回マイスターに認定していただいたのは、私の長年の経験と知識を評価していただいたと大変うれしく思っております。本日は誠にありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、西雅也様代理、有賀成一様、よろしくお願いいたします。

【西様（代理 有賀様）】 このたびは、令和6年度かわさきマイスターに認定していただきまして、ありがとうございます。大変申し訳ありませんが、本日は西に代わりまして、有賀のほうが対応させていただくことになります。

彼は高校卒業後、地元、和歌山なんですけれども、地元の会社に入社され、段ボール用の印刷のロールの研磨を担当してきました。5年ほどやっていると聞いております。その後、2002年にリカザイに入社されました。当時のリカザイですけれども、親分気質の文化の中で、金属箔の取扱い、触ることも非常に難しいですし、切断も難しい、圧延も難しい、全てが非常に難しい項目をたたき上げられて、現在に至っているという形です。

圧延機を使って、リカザイという会社は、温間圧延機、いわゆる数百度の温度と、あと冷間圧延機、常温、酸化しない温度帯ということですが、それを使って今、77年歩んでいる企業となります。

この写真にもありますように、圧延機、小さいんですけれども、幅30センチぐらいの圧

延機なんです、2人で作業します。これで見ますと、入れ手と受け手、熟練者は受け手の側になります。比較的若手が、ロールとロールの間にサンプルを入れて、受け手が抜き取って、ロールとの寸法を調整したり、箔を剥がしたり寸法を測ったりというような作業をいたします。一般的に売られているアルミ箔をイメージしていただくと分かると思うんですが、12ミクロンぐらいの厚みになりますが、当社の場合は1ミクロン、2ミクロンぐらいのものも作れる技術を持っております。もちろん全てではありませんが、ここにあるほとんどの金属はうちの実績があるものです。

研究開発のお客様にもたくさん慕っていただいているんですけれども、開発品はほとんどやったことがないものですので、その場合は西が担当するようになっております。リカザイはニッチなビジネス領域ですけれども、日本とか海外含めて当社しかできない項目もあつたりしますので、当社としては100年続く社会に貢献できる企業を目指しております。その一翼を担うのが西さんであり、大事な我々のスタッフという位置づけになります。

当社は横須賀線武蔵小杉駅から徒歩3分のところにありますので、御連絡いただければ、工場見学をして、圧延ってどういうものだろうというのが分かりますので、ぜひ来ていただければと思います。今日は本当にありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございました。

続きまして、橋本大輔様、よろしくお願いいたします。

【橋本様】 こんにちは。ただいま御紹介にあずかりました株式会社白壁屋代表取締役、親方をやっております橋本でございます。このたびはかわさきマイスターに認定していただき、大変うれしく思います。

ただ、我々左官業界においては、「50、60、はな垂れ小僧」と言われておりまして、まだまだ若輩者の私がこのような荣誉ある賞に認定していただき、身の引き締まる思いでございます。

認定していただいた要因の一つとして、日本古来の伝統技術である日本壁の施工という点が挙げられると思ひまして、日本壁というのは、土壁、あとは海草のりを煮立てて作るしっくい施工する、仕上げる日本壁、それにたどり着くまでの過程の一連の仕上げ方を日本壁と言っております。

この日本壁なんですけれども、さきの2020年、国連教育科学文化機関、いわゆるユネスコというところ、そこにおいて、伝統建築工匠の技、日本固有の伝統ある木造建築の建造、世代を超えて受け継がれるべきものとして、無形文化遺産として認定されているものがあります。そのようなものが、ここ川崎市においても周知されて認められたというのは非常に喜ばしいことだと思っております。

我々左官業界というのはなかなか皆さんの目に触れることが少ないかと思ひますけど、このような伝統的な構造物というのが、私の拙いものでありますけど、川崎市においての文化財だとか伝統構造物の修復などの際に少しでもお役に立てるようであれば幸いに思ひます。このたびは認定ありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、松林繁様、よろしくお願いいたします。

【松林様】 有限会社マスト代表取締役、松林繁と申します。今回マイスターに認定していただきまして、誠にありがとうございます。同時に、今回のことをこれからの自分の役目として、次の世代にいいものを伝えられるように、心新たに心機一転、思うと同時に、スタッド溶接というのは、あまりなじみのない言葉だと思います。しかし、意外と身の回りにかなり使われている部分でありまして、例えばビルの基礎だったり高速道路だったり車の部品であったり、様々な部分で使われているんですけれども、いかんせん目に見えない部分の仕事ですので、説明するのは大変少ないんですけれども、そういう部分で私がお世話になっている日本スタッドウェルディングさんが受注してきた様々な用途に使われる仕事を、条件だとか、そういう環境の中で、いい条件を出して商品としてお客様に渡すという大変やりがいのある部分もありますが、いつもいつも頭を悩ませながら、気づいたら35年でした。

その中で自分が持っている知識だとか経験を次の世代に伝えて、この業界、また、川崎市が少しでもものづくり、川崎市にスタッド溶接の会社があるぞと、そういうような認識を持ってもらえるように、今日から心新たに日々研鑽していこうと思います。本日はどうもありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございます。それでは、質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、この後、2つ目の議題の説明と質疑が終了後、改めしてお受けいたします。それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【朝日（幹事社）】 朝日新聞でございます。遠藤さん、下水管に使われる管内検査ロボットを開発したとありますけれども、開発というのは具体的に何をしたということなんでしょうか。

【遠藤様】 丸々1台全部設計したんですけれども、開発と言われても、車のロボットを作ったということなんですけど。

【朝日（幹事社）】 開発というのは一から設計……。

【遠藤様】 そうです。ゼロから私が設計しています。

【朝日（幹事社）】 独自で。

【遠藤様】 はい。完全な独自設計です。

【朝日（幹事社）】 そうですね。これまでこういった管内検査ロボットはなかったんでしょうか。

【遠藤様】 今まであったものとの違いは、今までのものって1台1,000万とか2,000万ぐらいするロボットなんです。ライトバンの中に操縦席を持って有線で操縦するようなロボットは多いんですけれども、私が作ったやつはずっと簡単なもので、それをたくさん並べていっぱい検査しようというのを始めたんです。その検査の方法が最近スクリーニング検査といって、国交省のマニュアルにも載ったんですけれども、そういった

用途で使える。要するに、調べなければいけない下水の数に対して、今までロボットが圧倒的に足りなかったのを、簡易なロボットでたくさんやりましょうというところが珍しいんだと思います。

【朝日（幹事社）】　じゃ、簡易なロボットで、安いコストでロボットを作って、低コストでロボット検査を実現させたと。

【遠藤様】　そういうことだと理解しています。

【朝日（幹事社）】　そうなんですか。これは特許などは、権利関係はどうなっているんでしょうか。

【遠藤様】　特許が取れるような内容は多分ないと思います、内容的に。

【朝日（幹事社）】　そうなんですか。

【遠藤様】　それぐらい、枯れた簡単な古い技術だけを使って設計しました、これに関しては。それと、新しい技術の組合せを使っているんですよ。古い技術にゴープロのカメラがすごく安く手に入るようになったであるとか、リチウムイオン電池がすごくよくなっているのを使うことによって、画期的に使いやすいつとは評価をいただいています。

【朝日（幹事社）】　なるほど。じゃ、これによって安くて簡単な検査が実現可能になったということですか。

【遠藤様】　はい。

【朝日（幹事社）】　分かりました。ありがとうございます。

時事さん、どうぞ。特にないですか。各社どうぞ。

【東京】　東京新聞です。今回は皆様おめでとうございます。改めまして確認をさせていただきたいのですが、遠藤様、鈴木様、西様は、それぞれの所属先の社員という形で、橋本様、松林様は、肩書として代表取締役といただいているんですけれども、「代表取締役」って新聞などであまり使わない表現なものですから、「社長」といった表現で構わないかどうかをそれぞれ確認させていただけますでしょうか。

【橋本様】　書いていただくのは「親方」をお願いします。

【東京】　親方で。

【松林様】　松林です。「社長」で大丈夫だと思います。

【東京】　それ以外の3人の方、「社員」でよろしいでしょうか。

あと、遠藤様にまた確認をさせていただきたいのですが、社長が既にマイスターでいらっしゃるということですが、身近にマイスターの方がいらっしゃるというのは、御自身にとってこれまで刺激になったりですとか、何か影響はあったりしたのでしょうか。

【遠藤様】　ありますね。あちこちで子供にものを教えたりとか、物を作る教室みたいなものを川崎市でやらせていただいたりしたんですけれども、そういうときに一緒にいると、ああ、やっぱりこういうこともしなきゃいけないんだなというふうには考えるようになりました。だから、今後もしできれば若い人たちに教えられればいいなとは思っています。

【東京】　ありがとうございます。

【朝日（幹事社）】 ちょっと確認なんですけど、遠藤さん、現在は有限会社伊藤工業に勤務されるサラリーマンということでよろしいですか。

【遠藤様】 はい。サラリーマンで合っていると思います。

【朝日（幹事社）】 先ほどの開発成果としては、従来よりも低コストで検査が可能になったということよろしいですか。

【遠藤様】 はい。

【毎日】 毎日新聞と申します。おめでとうございます。今日はありがとうございます。できれば皆さんに伺いたいのですが、一般の人にとって、皆様の技術というのはどういう意味を持つのか、どの辺が身近にあり得るのかというのを、簡単に結構なんですけど、教えていただけないでしょうか。皆さん、割と見えない部分であるとか、ちょっと一般の人には遠いかなという印象を受けたのですが、さはさりながら、例えば下水管なんかは日々使うものではあると思うので、その辺で、見えない、見えにくいけれども、こんなに身近なんですよという説明をもししていただければありがたいです。

以上です。

【遠藤様】 やはり直接的に見ていただくことってほとんどないと思うので、検査ロボットというのを割といろいろとやっていて、ほかにも高速道路の検査するロボットであるとか原発絡みとかもやったんですけれども……。

【毎日】 原発。

【遠藤様】 はい。原発絡みもやっていたりします。

【毎日】 原発はどういう……。

【遠藤様】 やっぱりカメラで様子を見に行くというやつがほとんどですね。放射線がそれなりに出ているところに行くロボットだったりするので、1回作ったらそれきりでもう二度と触れません。それ自体が放射性汚染物になってしまうので触れないですよとか言われちゃったりするのもあったんですけれども。

【毎日】 それ、福島第1とか……。

【遠藤様】 それはちょっと言えないやつです。あと、ほかに私はOEMで製品を直接設計して作っていたりもするので、私の製品を間接的に買うことは可能です。

【鈴木様】 弊社では、半導体と液晶の製造装置の部品をメッキをするという業種なので、かなり一般の方には遠い業種かなと思っております。ただ、今、半導体は何にでもついている、自動車だったり家電だったりついているので、そういうところで社会には貢献しているのかなと思っております。

【毎日】 じゃ、実際家電とか自動車に使われていると。

【鈴木様】 そうですね、はい。

【西様（代理 有賀様）】 リカザイです。どちらかというと研究開発向け用途になりますので、一番難しい質問の一つだと思うんですけれども、ただ、ぱっと思い出すと言えるのは、例えば乳がん検診のときのX線のフィルターみたいなものとか、あるいはこれは電子製

品、いわゆるメーカーは言えないんですけれども、ワイヤレスイヤホンの部分の一部をやっている。これは面白いのは、成熟した技術を薄くすることによって新しい製品が生まれたというふうに、うちが作っているわけではないんですけれども、うちが金属箔を提供したことによって新しい商品に生まれ変わったという。1つ、「ハンダ」というキーワードはあるんですが、従来のハンダは、皆さん知っているように成熟した技術なんですけれども、それを薄くすることによって新しい電子機器に使われたという、私たちもちょっとびっくりした内容のものがあります。

それとか、先ほどあったように、半導体系とか液晶系の露光機の精密機器のスペースを測るような基準器に、1ミクロン単位で厚みをうちは制御できますので、スペースをチェックできるような基準器になっているという、そのぐらいの用途。ほかにもたくさん用途があるんですけれども、ぱっと見、言えるのはそんなところになります。

以上です。

【橋本様】 白壁屋です。皆さんの目に見えないところというと、我々が関与するのは空気ですかね。皆さんが今お住まいになっているおうちとか、今いらっしゃる空間だとかに使われている建材はほぼ新建材で、中に有機溶剤だとかビニールだとか化学製品でできたものが多いので、それが放出する空気を皆さんは吸っていらっしゃると。我々が得意にしているものは伝統工法の技術なので、古くからある土壁だとか、海草のりから煮立てて作る伝統的なしっくいだとか、100%自然素材のものでその空間をつくっていくという。食べ物、飲物って、皆さん、体に食しても、腎臓なり肝臓が解毒してくれるらしいんですけど、鼻、口から入った空気というのは、そのまま肺を通して体中に循環して、そのまま皆さんの体の中を流れてしまうそうなので、皆さんの目に見えないところといったら空気というところですかね。

【松林様】 スタッド溶接のマストです。私たちの作業といいますと、今、皆さんがいてるこのフロアのコンクリートの壁の下、床のフロアの中にスタッド溶接というのを施工して、そのことによって、建物の柱と構造物の強度を上げるためのスタッド溶接というのは、こういう建物のフロアには今はもう全て行われているのと、こういう建物の下にはシートパイルというのがありまして、シートパイルの上に、くいの上に建物、構造物が建っていくという部分で、シートパイルの補強するための鉄筋の溶接、これもスタッド溶接で行われております。

あと今、一番身近で分かりやすいのが、各高速道路の床版の架け替え工事、東名だとか名神だとか、各NEXCOさんの一斉に床版工事が行われているんですけれども、その床版とはりの接合部分にスタッド溶接を用いて床の硬度を上げるという、そういう作業が今、一般的に分かりやすいのかなと。

あと橋脚ですね、橋。高速道路の橋脚、その根本の、羽田線で言えば海の下に潜っている部分の基礎の柱の補強工事、それもスタッドの鉄筋で補強工事を施工しているという形の部分で、私たち、仕事をさせていただいています。

【毎日】 それ、一般に強度が上がる、硬度が上がるという効果があると。

【松林様】 はい。それは構造計算された上で、設計の段階で、この材料をこれだけ溶接すれば、これだけ上がるという部分だと思います。

【毎日】 ありがとうございます。

【東京】 すみません、改めまして。皆様、川崎御出身の方もいらっしゃる、そうじゃないところからいらっしゃる、今お住まいは実は川崎じゃない方とかもいらっしゃるのかなと思うんですけれども、川崎市でこういうマイスターに認定されたことをどういうふうに受け止めていらっしゃるかと、川崎で仕事をするよさみたいなものを日頃感じている部分があれば、代理の方にお伺いするのもなかなか難しいかもしれませんが、事業を展開していく上でのよさとか、それぞれお伺いできますでしょうか。

【遠藤様】 私は加工を一部外注、一部というか、かなりの部分を外注に出して加工してもらうことが多いんですけれども、やっぱり工場とか加工屋さんがいっぱいいてくれるのがすごく心強くて助かります。

【鈴木様】 私は横浜在住なんですけれども、縁あって今の会社と、重量物を以前取り扱っていて、そこら辺のマッチングで、今の職種というか、メガニッケルといいマッチングができたと思っています。メッキ工場というのは限られていますので、川崎にという形になりました。

【西様（代理 有賀様）】 代理の者ですけれども、2つあります。1つは、私なんかは7年前にこのリカザイという会社に自分も移ってきているんですけれども、川崎市というところは中小企業に対して非常にサポートが手厚いというのを非常に感じました。だったら、もう逆にいろいろお願いして、自分たちの会社を発展させようという意識が生まれたというのがあります。

それと、やっぱり5年先、10年先、あるいはもうちょっと先を見据えていくと、子供たちに技術に興味を持ってもらうことってすごく重要です。なぜかという、我々はインターンシップで高校生だったり大学生を採用させたいなと思っていても、もっと前からある程度知識を入れておいて織り込んでおけば、そういったものでこういうのをやってみたいという子供が出てきてくれれば一助になるのかなと思いますので、そういった意味では非常に関連性が高いかなと私は思っています。

【橋本様】 川崎市というのは南北にすごく長く延びていまして、ものづくりのまち川崎と言われましても、南部のほうの地域は、工業製品だとか先端的な製造物の会社が多い。それに引き換え北部のほうは、まだまだ緑とか山とか自然が多く残っていて、北部の多摩区、麻生区、その辺で川崎市全体の緑地の40%とか言われているそうなので、ものづくりとして、南、北、分断ではないですけど、いろいろ行き来して、まだ古い北部のほうには農家さんとかあったりして、その修復工事だとかあったり、なかなか面白い地域だと思っています。

【松林様】 私は28年前に大阪から川崎に移ってきたんですけれども、そのきっかけというのは、今もお世話になっている日本スタッドウェルディングさんの本社が川崎にあったと、

そういう御縁で川崎に移住して、そこで会社を設立して今に至っているんですけど、そういう部分で川崎というのは、もともと自分は大阪出身なんですけど、大阪とちょっと風土が似ているところがあって、それと部品の調達だとか流通だとか、そういう部分でものすごくアクセスがよくて利便性が高い場所だと思います。そういう部分で、ここを拠点にすると、関東一円動いていけるという部分と、僕がいてる地域というのが職人さんのすごく多いまちなので、そういうところで他業種さんのいろんな情報だとか、そういうのも有効に生かせる場所であるので、これからもやっぱり川崎でやっていこうかなと思っています。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか、御質問のほうはよろしいでしょうか。ありがとうございました。

続きまして、市長を囲んでの記念撮影をいたします。まずは認定者の4名の方と市長で記念撮影をさせていただきまして、その後、西様の代理の有賀様も加えた撮影とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。撮影の準備に入らせていただきますので、セッティングにお時間をいただきます。よろしくお願いいたします。

(写真撮影)

【司会】 ありがとうございました。認定者の方々の製品等は、記者会見終了まで後方のほうに展示しておりますので、記者の皆様には後ほど撮影をいただければと思います。

これをもちまして、本年度のかわさきマイスターの方をお迎えした議題の1つ目を終了させていただきます。マイスターの皆様にはここで御退席をいただきます。ありがとうございました。(拍手)

《第17回川崎国際環境技術展を開催します！》

続きまして、2つ目の議題、「第17回川崎国際環境技術展について」となっております。

初めに、本日御同席いただいている皆様を御紹介いたします。

川崎国際環境技術展若者特別企画に御参画いただいた専修大学の学生の皆様でございます。後ほどお言葉を頂戴したいと存じます。

それでは、まず福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 お願いします。11月13日と14日の2日間、カルッツかわさきにて開催します第17回川崎国際環境技術展について報告いたします。お手元の資料1ページを御覧ください。

この川崎国際環境技術展は、2009年2月第1回開催以来、優れた環境技術やノウハウの情報発信、環境分野における市内企業等の市場開拓、販路拡大を目的に実施し、市内外から認知されるイベントに成長してまいりました。

今回の技術展は「Clean Technology, Green Future. 次世代環境技術で、未来を拓く。」をテーマに、123団体の出展が予定されております。お配りしている案内チラシにも記載しておりますが、市制100周年を迎える今回は、日本アイ・ビー・エム株式会社の森本典繁様による基調講演や、サーキュラーエコノミーをテーマとしたシンポジウム、セミナーな

どを実施するとともに、「国際」「若者」「協業」の3つのキーワードを軸とした特別な企画を実施いたします。これらの3つのキーワードを今後の技術展につなげ、さらなるビジネス機会の創出を図ってまいります。その中でも、若者特別企画として、これからの未来を担う学生と連携した取組について御紹介させていただきます。

1つ目は、学生が企画運営するイベント、「未来へつながるSDGs～私たちにできること～」についてです。本イベントを、学生と企業が交流を図り、企業の優れた技術を発信する機会の創出と、企業のSDGsへの取組意欲の醸成の場と位置づけ、専修大学問題解決型チャレンジプログラムを通じて事業に御参画をいただいている学生が、企画運営や広報活動を担当し、ワークショップや打合せを重ねて準備を進めてきました。

第1部では、学生と企業がともに参加し、異なる価値観や違う目標を持った参加者がそれぞれの目標を達成しながら、持続可能な世界の実現に向けて考え、SDGsを体感するゲームを実施いたします。第2部では、SDGsの取組を行っている学生が自身の活動について発表するピッチイベントを実施いたします。

裏面、2ページに掲載させていただいておりますが、イベントの実施に当たっては、学生ならではの視点で企画や広報を行っていただくなど、展示会を盛り上げるために意欲的に活動をいただいております。ふだんあまり接点のない学生と企業とが世代を超えて交流することで、双方にとって実りのあるイベントとなることを期待しております。

次に御紹介するのは、学生と連携した出展者を紹介する特集紙面についてです。専修大学文学部ジャーナリズム学科、山田健太教授とそのゼミ生に御協力をいただき、今回の技術展に出展する企業10社を取材し、その技術や製品を紹介することで企業の魅力を発信する特集紙面を作成いたしました。特集紙面は本日配付しておりますが、1から3ページには、各企業が展示する製品や企業の特色並びに取材に同行した学生のコメントを掲載、最終ページには今回の技術展の特色や、学生が取材を通じて感じたこと、印象に残ったことなどを掲載しております。

学生がこの暑い夏、10社の企業取材に同行し、企業の皆様のものづくりへの熱い思いに感銘を受けたと聞いております。そうした思いの詰まった紙面をぜひ多くの皆様にお読みいただき、そして実際の出展ブースに足を運んでいただきたいと思います。市制

100周年記念として開催する今回の技術展を様々な企画で盛り上げ、より多くの方々に御来場いただき、技術展に参画する企業にとって、より多くのビジネス機会が生まれ、自社の魅力を発信する場となることを期待しております。

また、技術展の会期中も含め、富士見公園を会場の一つとして開催中の全国都市緑化フェアへもお立ち寄りいただき、川崎の様々な魅力に触れていただきたいと思います。

私からの説明は以上でございますが、本日はそれぞれの取組に携わった学生の方々にお越しいただいております。ぜひ今回携わった取組の内容や感想を学生の皆さんから御紹介いただきたいと思います。

【渡辺様】 専修大学法学部法律学科、渡辺と申します。専修大学が運営する問題解決型チ

チャレンジプログラムという長期就労型体験インターンシップに参加しており、私たちは川崎国際環境技術展の運営に参加しております。メンバーは計8名いますが、本日、経済学部現代経済学科、金光と、法学部法律学科、花村が参加しています。企画チームと広報チーム、2つに分かれ、5月から活動を開始しました。11月14日に、僕たちは技術展内で実施する若者特別企画を考えました。タイトルは「未来へつなぐSDGs～私たちにできること～」です。

2部構成となっており、1部はSDGs経営を目指す企業と学生が一体となり、SDGsカードゲームを実施することです。第2部は、身近なSDGsに関する活動をテーマに、高校生や大学生が自身の活動やアイデアを発表する機会をつくりました。私自身、現在、大学3年生で、これから社会人を迎えます。この活動に参加するまで、私は社会に資するための不安がありました。しかし、この活動を通して、私は自己成長につながったと思っています。なぜなら、私はこの川崎出身です。大好きな川崎のまちを通して、自分の自己成長につながる機会を大学のプログラムを通して得ることができました。この機会を通して、私は自己成長するしかない自分の心に決め、未知の世界でありましたが、このような活動に現在参加して活動しています。

実際の活動内容といたしましては、私は広報活動に力を入れて活動しています。夏休みの期間を利用してインターンシップに私個人、参加したり、ほかのメンバーは企業訪問に行ったりと、それぞれがそこで得た知識や感想をSNSで発信をしています。

大変だったことは、私、リーダー経験が今までありませんでした。自分にとって未知の世界、毎日が冒険です。自分は社会人と関わる機会が今までありませんでした。そのため、ビジネスメールや敬語の使い方など一から勉強しました。これらの活動は、将来自分の力になると信じています。

やりがいといたしましては、リーダーとして活動したこの経験、そして体験を将来の自分の武器として、将来は川崎市のために働きたいと思っています。これらの体験は自分にとって貴重な体験であり、未知の冒険であります。そして、まだ当日までこの体験、そして経験、冒険は終わっていません。私たちは当日、この技術展を盛り上げるために精いっぱい頑張っています。そして、第1部のSDGsカードゲームはまだ募集中です。ぜひ参加、募集をお願いいたします。

以上です。(拍手)

【金光様】 先ほど御紹介いただいた専修大学現代経済学科の金光です。私からも、参加したきっかけなどを少し話させていただけたらと思います。

私がこのプログラムに参加したきっかけは、大学に入学してから、漠然と何かに挑戦したい、新しい経験をしたいと思っていたのですが、これまで行動を起こせずに、2年間だらだらと過ごしてきて、3年になった今、そんな自分と決別したいと考えて、このプログラムに参加しました。このプログラム以外にも、例えばパーマをかけてみたりだとか、あと免許も取りに行こうかなということ、いろいろ新しいことに挑戦したいということで、このプロ

グラムに参加しました。

私たちの活動内容なのですが、企画チームと広報チームの2チームに分かれていて、企画チームでは、イベントの企画や、SNSのダイレクトメッセージ、あとメールを通じたピッチイベントの登壇依頼などを行っていて、広報チームでは、こちらのチラシの作成ですとかTシャツの作成、それとSNSのアカウントの運営を行っております。全体では、会議、イベントの打合せと企業訪問もさせていただいて、とても貴重な経験をさせていただけたなと思っております。

先ほどもPRいただいたんですが、第1部のSDGsカードゲームは、現在も学生の参加者を募集していますので、ホームページのほうから、QRコードもしくはリンクから参加していただければなと思っております。

以上です。ありがとうございます。(拍手)

【矢田様】 先ほど御紹介いただきました専修大学山田ゼミ、新聞作成をさせていただきました矢田と申します。

まず、本日は私たちの活動内容を紹介する貴重な機会を与えていただき、ありがとうございます。私たちは、専修大学ジャーナリズム学科の山田ゼミに所属しております。私たちのゼミでは、いつもはジャーナリズムについて山田先生とともに勉強しております。今年の夏の合宿では能登半島に行き、被災地、避難所で生活をする被災者の方々や避難所を運営する方、そして現地の記者の方にお話を伺うという活動を通じて、東京で生活をしてはあまり身近に感じることはできない、現状を知ることを含め、勉強させていただきました。

ふだんはゼミは7人で活動しておりますが、本日は代表して、私、矢田壮一郎、そして徳田竜之介、廣本拓馬の3人が来ております。司会の方から御紹介がありましたように、今、皆様のお手元にあります川崎市が主催する第17回川崎国際環境技術展の広報紙を製作するお手伝いをさせていただきました。何をしたのか、その内容を簡単に御紹介させていただきます。

最初に、紙面作成についてお話をいただいたのは6月で、作成するに当たって、初めに、紙面作りの基本について、神奈川経済新聞さんのほうからレクチャーをいただきました。そして、その翌月から具体的な取材が始まり、主に夏休み期間をかけて10社をゼミ生で分担をし、取材をさせていただきました。9月に入ってからゲラのチェックを行い、今日こうして皆様のお手元にお届けすることができて、ゼミ生一同ほっとしております。

【徳田様】 印象に残っていることといたしましては、初めての取材活動で全て印象的だったんですけど、我々山田ゼミの通っている専修大学は川崎市の北のほうに位置しており、ふだんはなかなか中部や南部に行く機会はなく、取材活動をする中で、緑豊かな場所は見慣れています、建物あふれる都会的な町並みなど、いろいろな川崎市の顔を見れて、知ることができました。

川崎市の中だけでもSDGsに取り組んでいる企業さんがいっぱいあって、紙面でもコメントとして書かせていただいたんですけど、こんなに身近にSDGs、環境対策について、

思いもつかないようなことを人生をかけて研究、開発している人たちがいるなど、どの企業さん取材しても、環境に対する意識がとても伝わってきて、ふだん自分たちはそういったことを考える機会がないので、とても尊敬いたしました。

私は、特に株式会社ヘミセルローズさんが開発したバイオプラスチックを使った環境に優しいタンブラーやカップなどを実際に手に取ってすごいなと感じたので、それがとても印象に残っています。第17回川崎国際環境技術展のほうで紹介されているので、ぜひ皆さんにも御覧いただきたく思います。

そして、何より感じたのが大きな責任です。自分たちの書いたことが活字として印刷され、多くの方の目に触れ、ジャーナリズム学科として大学で記者活動の責任については日々学んでおりますが、それを実際に実践することができ、達成感と同時に、社会人として大切なことを学ぶことができました。本日は、我々にこのような貴重な機会をいただいたことを本当に感謝しております。この経験を通して、環境について自分でも考え、社会に貢献していきたいと思っております。ありがとうございました。

以上で報告を終了します。(拍手)

【司会】 ありがとうございました。それでは、御説明させていただきました2つ目の議題についての質疑応答に入らせていただきます。進行については、幹事社様、よろしく願いいたします。

【時事（幹事社）】 幹事社の時事通信から幾つか質問させていただきます。まず市長に、3つのキーワード、「国際」「若者」「協業」と設定をされていらっしゃいますが、この3つに設定をした意図と、あと今、実際にこのキーワードを受けて若者の方々が報告をしてくださったんですが、それを今お聞きになった御感想をぜひ教えてください。

【市長】 ありがとうございます。「国際」「若者」「協業」という3つのキーワードに当ててということでもありますけれども、これまで実行委員会のほうで、今回17回目になりますけれども、回数を重ねるごとに、どういうものが私たちに求められる技術なのかということを経験して、いろいろ決めていっています。1つはやっぱり、コロナが明けて、また、国際間の連携が非常に深まって期待されているというところでもありますので、これまでASEAN地域については非常に強みを持っていましたし、UNIDO様を中心として、アフリカ諸国などにも強みを持っていたんですが、今回はEUの国々との連携という形も新たに出てきて、そういった意味では、国際的な市場、これから開拓という意味でも大きな広がりを見せるという意味では、本当にワールドワイドな形での展開ができると期待しています。

実は出展企業の皆さんから、若者、大学生、高校生、あるいはもっと下という若い人たちの取組を期待する声は非常に大きいです。先ほどもマイスターの皆さんもおっしゃっていましたが、もっと若い段階から私たちの技術を知ってほしいということもありますし、むしろ企画段階から若い人たちの声をいただきたいというお声もある中で、こういった専修大学さんとの協業というか、取組をさせていただいたことを非常にうれしく思って

います。

実際に取材活動を通じて各企業の皆さんのところに行っていて、学生さんたちも刺激になったと思いますが、逆に企業の皆さんたちも、そのように評価していただいたことは非常にうれしいんじゃないかなと思っています。それと協業は私たちの川崎市の得意技でありますけれども、こういったところを重ね合わせて新しい価値をつくっていくというのが市制100周年のキーワードでもありますので、こういったところに今年の17回目もしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

【時事（幹事社）】 あと、ちょっと学生さんたちに伺いたいんですけども、まず今回、問題解決型チャレンジプログラムを通じてということなんですが、これ自体がどのようなものなのかよく分からなかったのもので、最初、サークルか何かかと思って伺っていたら、授業の一環なんですかね。どういう位置づけのものなのか教えていただけますか。

【渡辺様】 問題解決型チャレンジプログラムとは、このプログラムを通じて、将来、私たちが担うべき問題解決能力を養うために行われているプログラムです。これは授業の一環ではなく、自分たちの意思で行うことで活動を行っています。ですので、サークルや授業の一環といった、ゼミなどといった活動ではなく、私たちは自分たちの意思で入った団体だと思ってください。

【時事（幹事社）】 じゃ、大学で主催をしているプログラムに応募する形で、活動は御自身でやられているという形ですか。

【渡辺様】 はい。大学のキャリア形成支援課の支援もありながら、自分たちの活動、半年間の活動を通して問題解決能力を養っていこうというような趣旨で行っているプログラムでございます。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。あともう一つ、今回のプログラムでSDGsカードゲームというものがあるんですけども、これは既存のカードゲームなのか、それとも今回新しくつくられたものなのか、ぜひ御説明をお願いします。

【渡辺様】 こちらのSDGsカードゲームは既存のゲームです。このゲームは約90分行われ、長いと思われる方もいるかと思いますが、実際にこのゲームを体験してみた感想といたしましては、一瞬で終わってしまうぐらい夢中になれるゲームです。若者だけではなく、様々な年齢層の方が楽しめるイベントとなっておりまして、全世界を1つの部屋の空間、ミニチュアの世界だと例えて、自分で世界をコントロールしていくような楽しいゲームとなっています。ですので、90分があっという間に過ぎるとても楽しいゲームですので、ぜひ皆様お持ちしています。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。じゃ、このカードゲームを取り入れようということを御提案されたのが皆さんということですかね。

【渡辺様】 はい、そうです。

【時事（幹事社）】 このカードゲームをこの機会に取り入れようと思ったきっかけであり

ますとか狙いというものがあれば教えてください。

【渡辺様】 最近の若者は、SDG sであったり環境問題や社会問題について、ニュースや講義などで取り扱われる機会が多いと思います。しかし、実際、言葉だけ聞いていても、実際どのような内容かよく理解している学生は少ないと思います。私自身も実際この活動に参加するまで、あまり詳しくありませんでした。この活動を通して、私はSDG sを知るきっかけになりました。そして、社会問題や環境問題について知るきっかけにもなりました。このイベントを通して、学生、若者がこれからの日本、そして川崎の将来を担っていただけるようなきっかけになればと思って、このSDG sカードゲームとピッチイベントを選び、企画し、これから実施しようと思っている状態です。

以上です。

【朝日（幹事社）】 各社、どうぞ。

【時事（幹事社）】 各社、お願いします。

【司会】 御質問はよろしいですかね。よろしいでしょうか。ありがとうございます。そうしましたら、御質問は以上とさせていただきます。

続きまして、市長を囲んでの記念撮影をさせていただきますので、セッティングに少しお時間をいただければと思います。

（写真撮影）

【司会】 ありがとうございました。これで議題に関する関係者は退室いたします。

それでは、引き続きまして、市政一般に関する質問をお受けいたします。進行については、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【市政一般】

《衆議院議員総選挙の結果及び今後の対応について》

【朝日（幹事社）】 どうもお疲れさまです。朝日新聞でございます。衆院選が終わりまして、受け止めと、あと特別市について、私が仄聞している限りはさほど議論になってないので、今後、国会議員への働きかけの件も含めて受け止めをお願いできますか。

【市長】 今回の結果を受けて、政令指定都市の主張ですとか、この間、九都県市の首長会議もありましたので、いろんな意見交換をする中で、これから国に対して要請していくのは、今までとは少しやり方みたいなものは違ってくるのかなとかという、あくまでも想像の域でありますけれども、これまでとは少し違う景色になってくるのかなと思っています。選挙期間中、政治とお金の話に終始をしたような感があるので、あまり政策議論がなされたとは思えていなかったのが少し残念ではありますけれども、これから始まる国会論戦を通じて、日本のこれからの成長、それから私たちの自治体のあるべき姿をしっかりと議論していただけるように、私たちもしっかり働きかけを行っていきたいと思っております。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございました。あと、所得控除の103万円の壁の引上げが今後国会で議論になってくると思うんですが、この議論というのは、もし何らかの引上げがあった場合、地方自治体に対しての影響は何かあるんでしょうか。事務手続も含めて、も

しあれば教えていただけますか。

【市長】 直接的というのは私もあれですけども、間接的には様々関わってくるのではないのでしょうか。ある意味、所得の壁の話もそうですけれども、社会保険の壁だとかというのは中小企業に、当然所得の関係も各中小企業なんかに結構な影響が出てくとは思っていますので、その辺りの影響がどうなっていくのかというのは、今後の議論を注意深く見ていかないといけないなと思っています。しっかりと働けるようにしていかないと、働きたいけど働けないという問題がある一方で、社会保険料の負担を含めた負担の部分はどうなっていくのかというのは、皆さん、この議論の推移を経営者の皆さん、非常に注目していると思いますので、そこは私もしっかり見ていきたいなと思っています。

【朝日（幹事社）】 あとすいません、ちょっと戻って、先ほど、特別市の要請のやり方がちょっと変わってくるというのは、これはもう少しかみ砕いていただけると、どういうことなんでしょうか。

【市長】 やはり、これから政府の政策決定プロセスというのがどのようになっていくのかというのが少し流動化、今までのような与党ということだけではなかなか進まなくなってくるのではないのかなと。なってくるんでしょうから、そういう意味では、私たちとしてもより幅広い御理解を得ていくというのは、あらゆる取組についてちょっと違って来るんじゃないかなと、あくまでも予想の範囲ですけども、と思っております。

【朝日（幹事社）】 これまでは主に与党を中心に働きかけをされていたということですか。

【市長】 少なくとも私たち、川崎市は与野党ともにやっておりました。ただ、ほかの都市を見ますと、意外と与党というところも多いように聞いていますので、全体としては少し変わってくるのではないかなと。私たちはそんなに変わることはないと思いますけれども。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

各社どうぞ。

【東京】 東京新聞です。前回の会見で聞けばよかったのを忘れていたのですが、今、衆院選関連の質問もありましたけれども、今回の衆院選でどなたか応援に行かれたりしたことはあったのでしょうか。

【市長】 いえ、ありません。

《全国都市緑化かわさきフェアについて》

【東京】 あとちょっと話は変わしまして、緑化フェアのほうが秋の開催が折り返し地点を過ぎましたけれども、現時点での市民の盛り上がりとか反響など、感じていらっしゃるかどうか、何かここからてこ入れ、てこ入れと言うと今盛り上がってないみたいですけど、今、こういう改善ができるんじゃないかとか感じていらっしゃるがあればお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 始まってすぐに天気が不良だったということもあって、客足が少し少なかったかなと思うんですけど、一方で、最近また天気が回復してきたので、それに合わせてお客様は非常に増えていますし、緑化祭で報道されたことによって、行ってみようという気になった

方が多かったのか、昨日も私、富士見公園に行きましたけれども、昼間からすごくいるとかいうことになっていましたし、等々力も見に行きましたけれども、アクティブガーデンなんかはものすごく人気で、人がすごいことになっていたので、そういう意味では、だんだん、だんだん盛り上がってきているのではないかなと思っています。認知されることによって、これから尻上がりにお客様は増えるのではないかなと。聞いているところでは、団体のお客様も最近増えてきているということですので、それも非常にいいニュースだと思っています。

【司会】 御質問はよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当